opusdei.org

「生命の擁護者」と してのあり方

一命を軽視しているような人をどのように助けるか、極限 状態に直面して中絶、安楽死 などの悲劇的な解決法を選ん だ人たちをどのように導くか

2011/04/13

第4回プロ・ライフ世界会議

(スペインのサラゴサで2009年11月 6日に開催)での講演

「生命の擁護者」としてのあり方

一命を軽視しているような人をどのように助けるか、極限状態に直面して中絶、安楽死などの悲劇的な解決法を選んだ人たちをどのように導くか一

ナバラ大学神学部教義神学教授 ユタ・ブルッグラフ

始めに

ドイツ人作家カリン・ストラックを 思い出します。彼女の生涯の終りの 頃に知り合い、友だちになりまし た。早世(2006年帰天)しなかった ら、必ずやこの生命に関する会議に 出席していたはずです。

カリンは長年小説家として名声を馳せていました。大学時代には共産党員として熱心に活動し、その後、自由恋愛と同性愛を推奨していました。夫も恋人も持たず、4人の子ど

もたちと過ごすことを決意していました。ある日、5番目の子どもを的いました。宗教も持たず伝統的は出まれた。宗教も持たず伝統のでは、自分を留めることならず、自分にもかかわらず、自分にもかかれたことに心底驚愕した。です。そして、1992年、作家としての感受性からこの苦悩を『夢に現れた私の息子』という本にまとめました。

この本を出版したことで、彼女の生活は根本的に変わりました。これまで彼女に好意的だった大手の出版社だけでなく、著名な雑誌社コットをはないです。カリンは全がです。カリンは全がです。カリンは全がです。から顧みられなり、そして、次第になりました。その病を、身をもって知るようになりました。

彼女は急進的で勇敢な女性でした。 社会的な安寧のためだけ、間接的だ

私もそろそろ学び終えていい頃だと思っています。私はもう著名人ではなく、また著名人になりたいとも思っていません。ついに私は平和を得たのです」と。

カリンを助けた人たちに目を向ける ことにしましょう。彼らは困窮して いた彼女を経済的に助けました。 が、それ以上に、痛ましい状況に あった彼女に、新たな喜びと新たな 希望をもたらしたのです。彼女をよ りよい生き方に目覚めさせ、全面的 に彼女の命を守ったといえるでしょ う。

これから話すことは、「命の擁護者」として、圧力団体や政治的なグループに対して言うためではなく、パンフレットに書いたり、何らかの組織を作ったりするためでもありません。ただ、皆さんと共に、「反対派」の人たち、つまり中絶経験者、あるいは中絶や安楽死を願っている

人に対する、私たちの日々の振る舞い方について考えてみたいと思っています。

「擁護者」のある人たちは会を組織していますが、そうでかいしているにグループにが、からにグループにありません。ことはことですが、必要ないではありです。となってはないではないではないではないではないではないのです。 が、そうでが、がいかにないのですが、からによってはあいではない。 が、からいまず私たち自にはないのはない。 対していることがよりによることがよりによった。 がいることがよりによった。 切です。

I. ふさわしい態度

私たちは皆互いに異なった人間です し、生活環境も違います。さらに、 一人ひとりの振る舞い方もそれぞれ です。しかし、命を守る方法の中で 「擁護者」各自が培うべき共通の要 素がいくつかあります。

1. 剛毅

今の世で密かにあるいは白日のもとにまかり通っていることに対して、 命の尊厳を主張するためにかなりの 勇気と強さが必要です。いくつかの ことをお話しします。

ベルリンの壁が崩壊した時、東ドイ ツは、突然、新しい法律の下に自由 な国となりました。そして、秘密警 察の書類が公開されたのです。数多 くの恥知らずな問題と共に、市民に は知らされていなかった多くの特別 に重要な事実が発覚しました。ドイ ツ共産党の秘密警察は西ドイツにお ける公衆道徳や私生活での道徳の荒 廃に注目していました。そして、人 間の尊厳や、結婚と家庭の尊厳を守 ることにブレーキをかけるために必 要な方法を入手したのです。例え ば、誰かがテレビやラジオ、あるい は新聞に命を守るための発言をする と、あらゆる報道機関から辛辣な批

判を浴びせられました。厳格で高慢な「ファシスト」と呼ばれました。 そして軽蔑され、からかわれ、最終 的に黙殺されたのです。多くの批判 が偽名でドイツ共産党から届きまし た。

私たちが命を守るために働くつもり なら、自由で逞しい心が必要です。 周りの思惑に振り回されないように ならなければなりません。本物の 「擁護者」なら、ばか者扱いされて も、落ち着いてそれを受け止めま す。現代社会に順応することが「正 常しだと考えてそれに順応するより も、命を守ることのほうがずっと健 全です。自身の考える能力や自然さ を放棄することなく、困難があるに もかかわらず自身の内的光に従っ て、人間を卑小化・大衆化し、騙し たり操作したりする全てのことに反 対するからです。

また、発展途上国では、安楽死が公 認される前から、多くの病院で安楽 死は習慣的に行われていました。秘 密裡に危篤状態の病人を死なせてい たのです。当時、知人のピエトの母 親は痛ましい病気で瀕死の状態でし た。最後の数日間はひどく苦しんで いました。母親を家族全員が見守っ ている時、主治医が姿を現して皆を 見回した後、ピエトを廊下に呼び、 こう言ったのです。「聞いてくださ い。あなたのお母さんが安らかに死 んでいくように注射をしたいと思い ます。しかし、あなたが異なる信念 を持っていることを知っています。 それで、あなたの同意が必要です。 問題を作り出さないためにし。ピエ トは許可せず、医者は注射を断念し ました。母親の臨終は長く苦しいも のになりました。のちに、ピエトは 私に言いました。「私にはこのこと がトラウマになりました。母が死ん でいくのを見ても助けることができ ません。そのうえ、家族の者はその

苦しみを私のせいにし、私の頑固さ を咎めました」と。

現実には極めて厳しい状況があります。よろめいてしまう危険があります。命に関する完全な視点に基づく 固い信念を自分のものにしていなかったなら、落伍してしまうこともあり得るのです。

2. 謙遜

「生命の擁護者」はこの世の悪に対立する心づもりでいます。ですから、社会的な名声を失っても、最後まで力を尽くすことには価値があると考えます。

しかるに、私たちは皆、弱い者であり、疲れてしまうことを弁えておくべきです。皆が悪に加担します。第二次世界大戦中、アメリカのトラピスト修道士トーマス・マートンは痛悔の心と共にこう強調しました。

「各人、自らの大きな過ちを認める

べきです。私たち皆が何らかの形でこの戦争の責任を負っています…。 皆、ヒットラーの業に加担し、彼を 力づけたのです」と。

マートンの伝記を書いた人によると、彼は次のことを書いた人理解して、とをよく理解の中に見られるに見られるに見られるに見られるに見られるに自分のが自分のいたい。世の穢れはどの自分を見した。同時に、彼はしているを自覚しました。同時に、彼はして、ならの心の中に世界を見たのです。

こういう体験談を聞くと、人間性を深く見つめるように、また複雑な状況を軽はずみに判断しないように促されます。黒と白の二色だけがあるのではありません。世の中は、大罪人だけでもないし、一方、他人のた

めに歌いつつ死んでいく殉教者だけ でもありません。

ヨハネ・パウロ二世教皇はアウシュ ビツ収容所訪問の際に身をもって皇 の点をお示しになりました。教皇 の点をお示しになりなった人やの数多くの友人やの数多くのなったこの数 の同級生たちが亡くなった。説教をこりになると、説教をこれであると、にならずに、がなるとはしたのです。 新りをなさったのです。

のを見いだすことができるようにな ります。

また、ロバート・リー将軍は、ある 集会で指揮下のある士官について 高の賛辞を持って話しました。出席 していたある兵隊はあっけにとられ て言いました。「将軍、あなたが今 お褒めになった人は、あなたをこま 下ろす機会を狙っている最も質のです い敵の一人なのをご存じないのす か」。リー将軍は答えました。

「知っていますよ。しかし、私が頼まれたのは彼についての私の意見であって、私に対する彼の意見ではないはずです」と。

私たちが謙遜になるよう誠実に戦っている時だけ、人は私たちに心を開く気になるものです。まず自分の欠点や過ちを認めて話すことが大切です。中国の賢人、老子が2500年も前にこう言っています。「河や海が数知れぬ渓流の注ぐ所となるのは、身

を低きに置くからである」と。真正というなら、このようなら、このからないである。このである。このではないですがいた。ではないです。であるとなったがです。であるとなるでは、ないではないであるとなるでは、ないでもよりもして、しているとないができます。

3. 傾聴する

 つけられることは恨みの原因となり、時には何十年も恨み続け、死ぬまで続くこともあり得るのです。

間違いを犯した時、人は内心その間 違いに気づいているはずです。そん な時、私たちがその人に優しくと に対応することができたなら、私た ちの前でもその間違いを認めるはず です。しかし、正しくないことだと 必死になって認めさせようとな ら、決して自分の間違いを認めない ことでしょう。

落ち着いて振る舞うための秘訣は、人であるの人のなの人のなの人のないことです。全てルスのしないとです。全アルスではのように勝る存在ですかのあればカランス関連がはフランス開書がはフラン公開をはいます。「皆さんは他のであり続けます…。皆さんは他のであり続けます…。皆さんは他の

人々を尊敬なさいませんでしたが、 私たちは皆さんを人として尊敬する ように努めます」と。一人ひとりの 人間は、その幾多の過ちにも勝る存 在なのです。

難しいことですが、私たちは人々の 心の奥深くまで入り込む術を心得る ように招かれているのです。言って いることだけではなく、言いたいと 思っていることを推し量り、言葉だ けではなく、言葉に込められたメッ セージを聞き取らなければなりません。度々、ゴミ箱の役割を担うこのが求められます。この「ゴミ箱のですいないを手」が非常に少な人たちがうないで、多くの苦しむ人たちがらいるので、多くのといるでしょう。 破滅的な感情と恐ろしい経験ではいるのに、誰にも話すとができないからです。

落ち着いて最後まで相手の話を聞かなければなりません。人が言い残し

ている言葉こそ、決定的な言葉であ り得るのです。まさに、そうだから こそ、それを引き出さなければなら ないのです。それゆえ、グアル ディーニは忠告します。「『見、聞 き、感じるため』の練習をしなけれ ばなりません。表明された気持ちや 考えの後ろには多くの気持ちや考え が隠れています。隠れていたことが 最終的に明かされても、さらにその 後ろには隠れている事柄があるもの です」と。対話が上手だと言われる 人は、立派に話す人ではなく、他人 の言うことに関心を持って聴く人で す。

4. 理解する

懐胎したのに中絶を強制されて自暴 自棄になっていたある女性を思い出 します。数週間、助けてくれる人を 探しましたが、誰に助けを求めるべ きか分かりませんでした。彼女と話 したとき、どうして命を守る会で一 所懸命協力している友だちに話された。「無いる友だのかと尋れている方にです。「無いないでではいるでででは、これでではないででではない。ででではないでででではない。ででではないがでいる。ででではいい。ののではないがでいる。などのでではいい。ののではないがでいる。などのではないがでいる。などのではないがでいる。などのではないがでいる。などのではないがではないがではないがではないがではないがではない。

落胆したり失敗や苦悩に陥ったりした時、何にも増して重要なことですとはでしていたり冷たい態度で決めていたり冷たいまなる人間ですることが大切ですることが大力ですることが大力ですることを願うものです。アメリカの犯罪のとしていた、度重なる殺人によりです。なる人によりです。できる殺人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりです。なる人によりである。

気椅子で処刑される直前にこう書い ています。「私は疲れきった心、よ い心を上着の下に持っている。この 心は誰をも傷つけないことだろう | と。その人の生い立ちを知っていま すか。幼少時から、内的な空しさや **怠け心を助長し、彼を操っていた事** 柄が分かりますか。何が彼を自暴自 棄に陥らせ、憎しみを植えつけたの でしょうか。一人ひとりの考えや行 動には隠れた理由があります。この 理由を見つけたなら、彼の行動の手 がかり、多分、その性格を知るため の手掛かりをつかむことができるか もしれません。

様々なひどい状況が溢れている世の 中で、私たちは同情できる可能性を 見いだすよう招かれています。英国 の著述家グレアム・グリーンが書い ています。「物事を奥底まで知るな らば、星にさえ同情することだろ う」と。

もちろん私は、公の裁判に関して述 べているわけでも、罰を云々してい るわけでもありません。ただ、間違 いを犯した人に対する私たち一人ひ とりの態度について述べているに過 ぎません。日々の生活の中で、他人 を断罪することも他人の意向を裁く こともすべきではありません。この ようなことを「街中で」つまり公に するとなれば、ファリサイ的と言え るでしょう。それだけでなく、新た な暴力や迫害の渦が始まるでしょ う。このような状態から真の解放さ れて自由になるには、はただ一つ、 神の恩恵に助けられて心に触れ、変 わるよう働きかけることです。

辛辣なあるいは嘲笑的なコメントは 全く助けにならないばかりか、相手 をより惨めな状態に陥らせるだけで す。逆に、心から相手に関心を持 ち、相手の人となりや状況を気遣う なら、相手も好意的に応えてくれま す。理解することは健全な結果をも たらします。

一人ひとりの人は、自分が受けるに 値する愛以上の愛を必要と易いまた 思ったよりもずっと傷つき易います。 を知る必要があります。最大に至るまで、人は生きを る間、自らの過ちを悔い、生きます。 て直し、成長することがで過去す。 「将来のない罪人はなく、過ます。 い聖人はいない」と諺にあります。

理解するとは、各々は自らが犯したすべての悪とは別の存在であり、善をなし得る人間であると、固く信じることなのです。腐敗しきった人間など皆無です。一人ひとりのうちで光が輝いています。理解できたとき、私たちは次のように言います。

「決してあなたはそういう人ではありません。あなたがどんな人かを 知っています。実際、あなたはもっ ともっと素晴らしい人です」と。他 人のためにできる限り全ての善を望みましょう。人々の全人格の成長、 最高の幸せを望むよう心底誠実に努めましょう。

Ⅱ 友情を培う

過ちや間違い、卑劣さや悪徳に陥っている人がそこから抜け出て、新たな識別を持つよう願うのならば、まずその人と友情関係を築くことが必要です。信頼があれば相手の助言を

受け入れ、誰よりもよい友だちであ り続けるでしょう。

現代の特徴とも言える大衆化や匿名 状態を前にして、私たちは心温まる 場所や家に居るように感じることの できる空間を必要としています。友 だちの中で信頼が生まれ、家庭を体 験します。祖国と家庭のない現代、 多くの人にとって友情は家庭であり 祖国なのです。

1. 不可欠な条件

人の生活の中に大胆に入り込むには、自分自身が平和に過ごしていなければなりません。自分自身とよく付き合い、ある意味で「自分自身の友だち」にならなければならないのです。

中絶を繰り返していた女性を知って いますが、彼女は素晴らしい思考の 転換後、命を守るため果敢に働きました。あるとき、私に打ち明けました。「率直に言って、私は自分を性んでいます。中絶した全ての女性を憎んでいます。この罪を犯した人良には、二つの道しかありません。良るに戦うか、それとは反対のために戦うかです」と。

しかし、命を守るのは自分自身の問題解決のためではなく、人々を助けるためなのです。私たちの内部に渦巻く苦々しく嫌な思いを伝えるだけなら、人を息苦しくさせるだけで効果的な働きはできません。そんなことをすれば、人々は自分を守るために私たちから逃げていくでしょう。

自分自身に喜びを感じていなければ、どこにいても喜びを感じることはできません。自分自身ときちんと向き合っていなかったら、誰とも真実の出会いは実現しません。自分自

身が落ち着いていないのなら、周り に平和を振りまくことはできませ ん。

中絶の経験のある人には、第三の可 能性があります。「自分自身の友」 になることができれば、落ち着いて 命を守ることができるということで す。ところで、どのようにすれば、 そうできるのでしょうか。友情には 真に誠実な態度が不可欠です。嘘に 基づいて友情を築くことはできませ ん。ですから「自分の友」になるに は、正しい意向で振る舞うことが必 要です。自身の中に起こってくる大 きな問題を押さえつけてはなりませ ん。自身の心を整えて善の方に向 け、自らの存在の意義を全面的に捉 えるようにしなければならないので す。

人が神と、また自分自身と仲直りすれば、自らの「証言」を、説得力を 持って世に発信する幸運を手に入れ ることになります。これは素晴らしい仕事であり、償いの機会でもあります。これはまた、日毎に自身の傷を深みから癒すための方法でもあります。

2. 優しさの価値

私たちの会話には力を示す二つの形があります。相手を突き落とすか、あるいは引き上げるか、言い換えれば、破壊的な態度か建設的な態度で振る舞うかです。

攻撃的な言い方や皮肉、横柄で無愛想な言葉、権力を誇示したり人を非難したりすることは、破壊的な態度です。そのような態度では、反抗心を起こさせ、時には公然と反逆が生じます。

相手を打ちのめすためのテクニックなど必要ではありません。どんなことでも相手を打ちのめすことができます。時には立腹よりも無関心に

よって人は傷つきます。高い代償を払わなければなりません。議論それでした。表よれが立し、反論しています。内心しています。のではいることになりになりになられば感を何らいまするですれるできるがはない。意見を分がはないではいるできない。ですれんの意見を分が出るですが出てきます。

確かに強制的な態度で悪を避けることもあるでしょう。たとえば、無罪の人の死を回避することなどでわせることないものいるされは人を善に向かりません。普通の場合、強制によってく長れないらのものではないものです。誰に対してきません。

中国人は「静かに歩む者は、素晴ら しいことを極める」と言います。同 じことを「太陽と北風」の寓話も 語っています。太陽と北風の間で、 どちらが強いかと議論が始まりまし た。まず北風が言いました。「向こ うからマントを羽織った青年が来ま す。賭けてもいいですが、あなたよ り私の方が早くマントを脱がすこと ができますよ」。北風は、全力で青 年に吹きつけ、まるで台風のよう に、吹き荒れます。ところが全力で 吹きつければ吹きつけるほど、青年 はいよいよ強くマントに包まりま す。ついに北風は静まり、敗北宣言 をします。そこで太陽が青年に微笑 みかけます。それほど経たないうち に暖かくなり、青年はマントを脱ぎ ました。

確かに、優しさは猛々しさよりも力があります。心を通してのみ、相手の知性に訴えることができます。相手が私たちを避けるなら手の施しよ

うがありません。私たちにとって最も重要なことは、相手を心から愛し、相手の幸せを望むことです。それを相手が感じ取ったなら、そのときこそ、友人になる可能性が生まれるときです。こうして、一人ひとが相手の言葉に耳を傾け、一人ひとりが相手から学ぶことでしょう。

他人に対する先入観をなくすとき友 情が生まれ、その友情は深まりま す。友情は、非常に親密に時間とと もに育まれるものですから落ち着き と強い感受性を必要とします。愛す る人は、自分自身の命、自分に備 わっているものなど、相手に与える ものです。喜びや悲しみ、夢や失 意、経験や計画、考えや出合った真 理を、喜んで分かち合います。一言 で言うなら、自分に関することを全 て話そうとします。そのような雰囲 気があるなら、あらゆることを、自 分の過失がどれほどひどかろうと、 全てを話す気になるものです。

3. 真理を伝える

人との交わりを建設的なものにする には、すでに双方の間にあるるるるでに双方の間にあすることを が大切では、相手のよい点を見いたなりません。私たちは皆、から期待されているこだからは 動しがちだからでするのです。 があるになかるのです。 はこんな金言があるらいたる る人にをしているかいる る人にでしているいように相対しなさい」。

私たちは常に自分の言葉で話さなければなりません。使い古された言い回しでは、そっぽを向かれてしまいます。言葉というものは、最良腐なに至るまで、使われ過ぎると陳腐なものになってしまうことを忘れて主なりません。命を擁護するためません。命を擁護するためません。同じの象が薄くなってしまいます。同じ

ことを言い表すにしても創造性のある言い方を考える必要があります。

相手を真に愛する人は相手の犯した 悪を軽く見たり見過ごしたりはしま せん。それぞれの状況に合わせて、 誠意をもって道徳的に要求されてい ることを伝えるように努めるでしょ う。偽りの約束を求めたりはしませ ん。偽りの約束では、恒久的な平和 をもたらさないことを知っているか らです。ナタリア・ホルストマンと エンリケ・スエイロが強調していま す、「基本的な倫理規範を避けるの は正当なことではありません。善い ことがあり悪いことがあります。そ の善性と悪性は人々の合意のもとに 決められるものではありません。タ バコが人に有害なのは箱にそう書い てあるからではない。男尊女卑が忌 むべきことだというのは政府がそれ を禁じるからではない。いずれもそ れ自体が害を及ぼすのであって、誰

かがそう言うとか言わないとかの問題ではない」と。

一見苦々しく思うことであったとしても、人には真実を知る権利があります。それゆえ、私たちは寛大な人たちのお陰で手に入れることのできた光を、他の人にもたらす重大な義務があるのです。

同様に、人々とのあらゆる関わりを 誠実なものにするには、自分がどん な人間であるかを知らせることが必 要です。私が相手を知りたいよう に、相手は私を知りたがっているの です。私たちが違いを表さないよう にするなら、誰もそれを口に出さな くなってしまいます。そうすると、 平穏な状態が暫くは続くでしょう が、それは外面だけのことで、心の 底ではお互いにあるがままの状態を 受け入れていないのです。そして私 たちの関わりは日毎にますます外面 的なものになって失望し、遅かれ早 かれ関係は壊れてしまうでしょう。

錯綜した関係ができてしまうと、誰 の助けにもなりません。ですから、 真理を明確に、できる限り完全に説 明することが必要です。私たちが細 やかに相手を尊重しつつ振る舞うな ら、友だち関係は難しくならないば かりか、友情は深まっていくので す。「愛に欠けることを真理として 受け入れてはなりません。また真理 に欠けることを愛として受け入れて はなりません。いずれが欠けていて も破壊的な嘘になってしまいま す。 | これは哲学者ユデット・シュ タインの言葉です。特に命を守るた め、ふさわしい言葉のように思えま す。全ての真理が偽りと混ざり合わ されると、偽り以外の何ものでもな くなるのです。

4. 障害を乗り越えるよう助ける

ソクラテスは、誰にも何も教えないのがよいといいます。この偉大な先生は同時代の人たちを自ら見つけ法と真理に導いていました。彼の方法は人間の心を深く理解していたことを反映しています。度々、私たちは人々が便宜を図って伝えてくれた出した真理を重要視するものです。

心理学では「奪われた意向」という ものについて話します。熱意を込む で何かをしようと思ってかがそれは確かにあなたがなまってがないにあるなればと言おうもしまっているのはかにない。それは仕事の立るのいように感じるのいるのように感じるのいるとを決意した事柄についるとを決意した事柄についるとを決意した事柄についるとを決意した事材にもいません。

このように、何よりもふさわしい事 は、当事者の高貴な動機を大切に

し、当事者自身でよいことをしたり 悪いことを痛悔したりするように助 けることです。落ちた井戸から出よ うと決断することはその人自身であ り、またそうでなければなりませ ん。これは、友の傍らに寄り添うこ とによって可能になります。人は友 の傍らにいるとき、本物の自分自身 との関係を打ち立て、自らの心に誠 実なものと真なるものを受け入れる ことができるのです。山の空気に包 まれていると感じ、そのお陰で普段 とは異なった呼吸ができるのです。 普段どおりにそれぞれのやり方で呼 吸できているお陰で、山の清浄な空 気に包まれているように感じます。 その空気のお陰で、そこにある崇高 で高貴なものとの交わりが築かれて いきます。

私たちの役目は何よりも、人の最も 親密で真実な思いと関わり、その心 に秘めている衝動を表すよう勧める ことです。私たちが傍らにいて助け る人であることを、認めてもらえた ら、そのときこそ私たちは救いの道 が実現可能であるという固い信念を 伝えることができます。

夜の闇に包まれていても、よき友は 元気づけ光と希望を与えます。 おきを犯して意気消沈してまった を行うないます。 はきれからなとないます。 自らのことを認めるととなる を与えます。 で生きる決意のことがあれた で生ます。 「旅は道連れ、世は情け」。

結び

命を愛することは、度々、勇気と剛毅、正義のうちに表われます。同時に、謙遜、傾聴と憐れみによって示されます。いつも真理を擁護しますが、その最もよい面は、本物の友情が築かれることです。

私たちは、身体的に命を失う危険にいる人にも、霊的に命を奪われる危険のある人にも、生きてほしいと望んでいます。誰もが私たちの心遣いを必要としています。そして、悪事を働いた人はその害を被った人よりません。

「擁護者」が、全ての人の最もよい 点を見抜き、悪事を働いた人と出会 うことに慣れると、自分自身の生活 をも高めることになるでしょう。 人々との誠実な付き合いは生き方を 向上させるものです。アイディアが 豊かになり、ますます力強くなりま す。|擁護者|はより深く愛するこ とができるようになり、より正しく 導くことができるようになります。 混沌とした世の中で、理解するため の知恵、戦うための忍耐、そして言 葉に尽くせない喜びを身につけるこ とができるでしょう。それらは、 人々を暗闇から光へ導くための熱意 からもたらされるのです。その生き 方を要約すると、アントニオ・マ チャドの有名なモットー「考えは高 く、思いは深く、話は明確しという ことになります。

ユタ・ブルッグラフ

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/seimeino-yougousha/ (2025/11/17)